

序



大友恵愛園ボランティアサロン

会長 奥山 健一

昭和 47 年、札幌市が政令都市に指定され東区が誕生し、同 55 年 6 月に札幌市の中核的施設として特別養護老人ホーム大友恵愛園が開園。まもなくして、当園でのボランティア活動が始まりました。

以来、バブル景気などの経済情勢の変化、社会保障制度の変遷を経験しながら、いまここにボランティア活動 30 年の節目を迎えることができました。

永きにわたり、活動をご指導くださいました関係機関、地域、当園職員の皆様に深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。そして、ボランティア活動に携わったすべての皆様と共に、これまで活動を継続できたことを心から喜び合いたいと思います。

「傾聴」をはじめとして「布オムツたたみ」「清掃」「入浴送迎」など、当初の活動は、その時々ニーズに応じたものへと変化しながら、現在は「清掃」「コップ洗い」「手芸」「繕い物」「すこやか倶楽部」の五つの活動が行われています。

いま、30 年に亘る歩みを回顧し活動を記録に留めるとともに、ボランティアが果たしてきた役割を改めて考える機会とし、情勢に相応しい活動への発展と社会貢献を目指すべく「ボランティア活動 30 年記念誌」を発刊することといたしました。

この度の発刊にあたり、札幌市東区役所、社会福祉法人札幌市東区社会福祉協議会、特別養護老人ホーム大友恵愛園の皆様には、大変お忙しいなかご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

ここに、特別養護老人ホーム大友恵愛園及び地域の益々のご発展、当園入居者の皆様とボランティアメンバーのご健勝を心からご祈念申し上げます。

大友恵愛園ボランティアサロンの30年記念誌発行に寄せて



特別養護老人ホーム
大友恵愛園

園長 佐藤 裕光

「大友恵愛園ボランティアサロン」の皆様におかれましては、常日頃から当園の事業運営に様々なボランティア活動を通じ、大変貢献いただいております。心から感謝申し上げます。

また、皆様の活動が30年を迎え、「ボランティア活動30年誌」を発行されるに当たり、心からお祝いを申し上げます。

皆様の活動は、当園が新設された翌々年の昭和57年に、「話し相手」や「小物作り」をはじめとして、参加者も年々増加するとともに「着物類補修などの繕い」「車椅子介助」「清掃」「オムツたたみ」「入浴介助・着替え」「シーツ交換」「行事手伝い」など活動内容も多岐にわたり増加してきております。

日本におけるボランティアの高まりは、平成7年1月17日に起きた「阪神・淡路大震災」からと言われており、このために、この年は日本における「ボランティア元年」と言われています。

皆様のボランティア活動は、この十数年前から行われており、ボランティア的役割を果たしてきたとも言え、敬意を表したいと思います。

今後とも、入居者の方々が楽しみにお待ちしておりますので、これまで同様よろしくお願い申し上げます。

